

## 5-2-4 経済科学部の教育の特色とねらい

近年の経済社会の変化は急激であり、経済現象は複雑化かつ多様化し、また情報化社会は急速に進展している。このような経済社会の変化に対応し、また学問の発展に対応するために、広島修道大学経済科学部は、1997年、現代経済学科および経済情報学科の2学科で開設された。

「経済科学(Economic Sciences)」とは、情報科学等の現代的諸科学を大幅に導入し、コンピュータ等を用いて、実際の経済現象や経済問題を、さらには経営・社会・環境等に関する諸現象や諸問題を、的確に分析することを試みる学問である。経済科学部では、このような観点から、経済学と情報科学とを有機的に結合することを課題としつつ、情報化時代・情報化社会に即した新たな経済教育と情報教育とを試みる。

特に、経済科学部の教育においては、次の2点を重視している。

(1)学修の“対象”として、最新の経済現象・経済問題等を取り扱う。

(2)学修の“方法”として、情報科学やシステム科学など、最新の諸方法を用いる。

(1)について補足しておく。上述のとおり、最近の経済社会は極めて複雑化・多様化している。たとえば、金融問題や環境問題などは重大な課題であるし、経済の国際化あるいは経済の情報化なども重要である。経済科学部では、このような最新の経済現象・経済問題等を学修の対象とし、可能な限りのアプローチを試みる。(2)についても補足しておく。最近の情報技術および情報機器の進展は目覚ましい。これにともない経済分析の方法も大きく変化し、今日ではコンピュータはもっとも重要な経済分析のツールである。経済科学部では、このような見地から、最新の情報科学やシステム科学を学修の方法とし、コンピュータの知識と技術の習熟を試みる。

以上、(1)と(2)を総合し、経済科学部では、現代の複雑な経済現象を学修対象とし、コンピュータすなわち情報科学を学修方法とし、新たな経済教育・情報教育を目指す。現代経済学科では、特に上記の(1)を重視して、最新の経済現象や経済問題を理解できるように教育する。経済情報学科では、特に上記の(2)を重視して、コンピュータの実習を中心に、最新の情報科学やシステム科学などの方法を教育する。

経済科学部が養成しようとする人材とは、端的に言うならば、「現代の経済社会・情報社会に求められる高度な知識と技術を有する人材」である。前述のとおり、近年の経済社会の変化は激しく、情報社会の進化は著しい。このような経済社会の変化に冷静に対処し、そして情報社会の進化に適切に対応することは、現代人にとってもっとも重要なことである。経済科学部の輩出する人材は、経済社会に対して理論的・実証的な分析能力を備え、そして情報社会に対して統計的・数理的な解析能力を有している。このように、「現代の経済社会・情報社会に求められる高度な知識と技術を有する人材」を養成することが、経済科学部の教育目標である。

### 1. 現代経済学科の教育の特色とねらい

現代経済学科では、これまでの経済学の成果を十分取り入れるとともに、独自の視点から新たな経済教育を試みる。現代経済学科が“現代”という言葉に冠しているのは二つの理由による。第1の理由は、現代経済学の分析対象によるものである。従来の経済教育では、経済原理や経済法則の理解に重点が置かれ、実際の経済現象や経済問題を取り上げる機会が少なかった。現代経済学科では、現代の経済現象や経済問題を積極的に取り扱い、理論と現実の関係に注目する。特に、国際、金融、情報、環境等のキーワードに代表される現代的なトピックスを積極的に取り扱う。第2の理由は、現代経済学の分析方法によるもので

ある。経済学は規範的側面と実証的側面をもつが、いずれの側面においても、現代の経済現象や経済問題を取り扱うには、統計的手法や数量的手法を用いて経済データをコンピュータで分析することは必須である。

現代経済学科では、このような観点から、現代経済学の学問体系を以下の5要素で構築し、新たな教育研究を試みる。

- ① ミクロ経済学・マクロ経済学の学修
- ② コンピュータを用いた統計的手法の学修
- ③ 変化の激しい現代経済の実態に関する学修
- ④ 現代経済の多様な領域に対する客観的な分析方法の学修
- ⑤ 経済の歴史など現代経済を総合的に考察する分野の学修

人材育成については、現代経済学科では、「現代の経済社会を体系的に把握かつ科学的に分析する能力を有する人材」を養成する。さらに、情報処理能力も備え、ビジネス社会におけるエンドユーザーはもとより、ビジネス・アナリストやシステム・アナリストなどコンピュータを有効に活用できる人材として育成する。これらの人材は、金融、製造、建設、教育、マスコミ、流通などの諸分野で、分析力と洞察力を兼ね備えたスタッフや管理者として活躍しうる。あるいは、これらの人材は公務員や教員として活躍することも期待できる。このように、「現代の経済社会を体系的に把握かつ科学的に分析する能力を有する人材」を養成することこそ、現代経済学科の教育目標である。

## 2. 経済情報学科の教育の特色とねらい

経済情報学科は、1997年、商学部管理科学科を母体として開設された。管理科学科は四半世紀の長きにわたり、広島修道大学の情報教育を牽引し、そしてコンピュータの普及に貢献してきた。経済情報学科は、管理科学科の伝統を受け継ぎながら、複雑化する経済社会および高度化する情報社会に対応すべく、新たな情報教育を試みる。コンピュータの学修を重視しつつ、企業・産業・国民経済など各種の経済レベルにおける情報科学およびシステム科学を独自の視点から教育する。

経済情報学とは、端的に言うならば「経済社会をコンピュータで分析する」学問である。しかしながら、より正確かつ厳密に言うならば、経済情報学とは「経営・経済・社会・環境等を、ある種のシステムとして把握し、科学的にコンピュータで分析する」学問である。経済情報学の学問体系は、基本的には、次の3要素から構成されようと考えられよう。

- ① コンピュータ適用の対象である経済社会等の学修（A群）
- ② コンピュータ適用の基礎となるシステム科学の学修（B群）
- ③ コンピュータそのものを理解するための情報科学の学修（C群）

人材育成については、経済情報学科では、「経済社会の発展に貢献しうる情報処理能力および論理的思考力を有する人材」を養成する。このような人材は各種の情報技術・情報機器にも精通し、システム関連、通信関連、データベース関連、アプリケーション関連、OA関連など、各種の情報関連分野におけるスタッフや管理者として活躍しうる。また、製造、流通、金融、保険等の各種分野において、技術部門と営業部門とを橋渡しする貴重な役割を果たしうる。もちろん、公務員や教員を選択することも十分に可能である。このように、「経済社会の発展に貢献しうる情報処理能力および論理的思考力を有する人材」を養成することこそ、経済情報学科の教育目標である。